

犬山城 つけ櫓

犬山城の天守は、城に近づいてくる敵を見張りが監視する唯一の展望台ではありません。天守の両側にある2つの砲塔（つけ櫓）は監視室としても機能します（一つは見張り塔、一つは石落としの間にある）。外観からは、城のデザインに溶け込み、高さ5メートルの石造りの地下室の角を越えて延びています。内側の窓から周辺エリアの広い眺めが見え、防御側は軍隊の前進よりも有利になります。守衛室は、城の守備隊が突破された場合に、入り口の上の側面から反撃できるようにします。1891年の濃尾地震により元のつけ櫓は破壊されましたが、後に元の状態に復元されました。